

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (6) —ハナミズキ—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

毎年4月下旬から5月上旬にかけて、県内の市街地の道路沿いに植栽されているハナミズキの花が咲き、ドライバーや通行人を楽しませてくれます。この樹木は、庭園木や庭木としても植栽されており、親しみのある樹木です。

この時期に巣網を高枝バサミ等で除去する方法が最もよい方法です。この時期を過ぎれば単独で食害し始めますので、デミリン水和剤の4000~8000倍液、スミチオン乳剤の500~1000倍液等の散布で対応してください。後者では、発生初期にトップジンM水和剤の1000倍液等の散布で対応してください。

1. ハナミズキ

この樹木はミズキ科ヤマボウシ属の落葉樹で、アメリカ東部海岸からメキシコにかけて分布しています。高さは5~12mです。1912年、東京市長尾崎行雄がアメリカにサクラを送った返礼に、アメリカから送られた樹木としても有名です。日本には本来生息していない樹木ですが、日本のヤマボウシによく似ていることから、アメリカヤマボウシとも呼ばれます。ヤマボウシとの違いは花の咲く順番が違います。ヤマボウシは葉が開いたあと花が咲きますが、ハナミズキは逆です。さらに、「花」の形も違います。花弁のように見える総苞片の先端がくぼんでいるのがハナミズキ(写真1、写真2)で、くぼんでいないのがヤマボウシ(写真3)です。



写真2 ハナミズキの花

2. 生育特性と主な病害虫の対策

半日陰地でも育ちますが、日当たりのよい、適湿の肥沃地でよく育ちます。実生と接木で増やことができます。主な病害虫としては、アメリカシロヒトリやうどんこ病等があります。前者では、5月下旬~6月中旬の期間と7月下旬~8月中旬の期間は巣網(写真4)の中で、若齢幼虫が集団で食害していますので、



写真3 ヤマボウシの花



写真1 ハナミズキの花



写真4 アメリカシロヒトリの巣網